

事例8-6



取組名	納涼会開催による町会の活性化と、人材発掘・育成		
町会名	ことぶきだい 寿台2丁目町会（寿台地区）	町会 データ	・人口／377人 ・世帯数／165世帯 ・高齢化率／41.1% ・町会加入数／149世帯 ・隣組数／15
取組概要	○ コロナ禍を機に始めた町会の「納涼会」が100人規模のイベントに成長 ○ 「2丁目ボランティア部」が納涼祭を下支え。活動の中で町会内の人材を発掘		

背景・課題

- ・ 町会の役員は、現在50代が主に担っているが、次の世代をどうするかが課題になっている。50代に比べて30～40代の人数が少ないこともあるが、関りは少ない。
- ・ 寿台に住んで2代目という住民もいるが、関係づくりはそれほどできていない。

- ・ 中には、ボランティア部には名を連ねたくないが、草刈りには協力してくれるという人もいて、保険はその人も含めて付保している。いちばん若いメンバーは30代だが、若い人は少ない。



納涼会 花火大会

経過・取組内容

① 「納涼会」の開催

- ・ 毎年、お盆の初日に「納涼会」を開催している。コロナ禍で地区の夏まつりが中止となった際、「寂しいから何かやろう」といって始めたのが最初。
- ・ 準備が大変なため、役員は終わったあとヘトヘトになるが、やりがいもある。
- ・ 内容は、子ども対象のゲームコーナーが中心。子ども会や、2丁目ボランティア部など有志の団体がブースを運営してくれる。
- ・ チラシに抽選券を印刷し、当日抽選箱に半券を入れてもらうようにしたところ、普段町会行事に来ない人も出てくるようになった。

② 「2丁目ボランティア部」の組織化

- ・ 納涼祭を下支えしているのが「2丁目ボランティア部」。町会内の清掃・環境美化等を推進するために組織化し、草刈りや雪かき、町会行事などを担っている。ボランティア部のメンバーについては、納涼会をはじめ、町会の活動を通じて、加わってくれそうな人に声がけをしている。

成果・今後の展望等

- ・ 納涼会は、R7年度で6回目を数え、100人超が参加する大規模イベントに成長した。
- ・ コロナ禍の制約を新たな機会として捉え、住民の「やりたい」を形にしたことで、住民力の高さを示すことができた
- ・ 納涼祭は、町会住民の多くが参加するイベントであり、企画運営を担ってくれる住民も多いため、可能な限り継続したい。
- ・ 2丁目ボランティア部の活動が、町会の活性化と町会内の人材発掘や育成につながっている。

【ポイント】

- ▼ 草刈りボランティアを通じた町会内の人材の発掘・育成
- ▼ 住民の「何かやろう」という発想を許容し、後押しができる町会運営